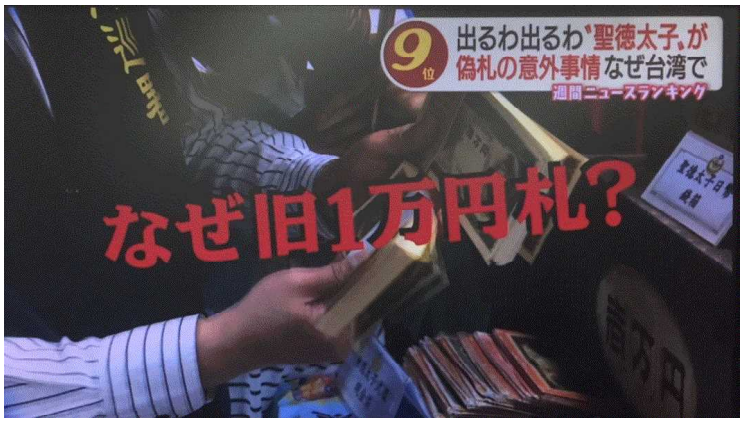
2019.4.13テレ朝「ニュースJチャネル」

台湾で発見された2億円余の偽造聖徳太子壱万円、なぜ今？

台湾で聖徳太子壱万円の偽造が台湾北部の新北市で発見されました。その額は2億円余です。なぜ今旧一万円の偽造がしかも大量に見つかったのでしょうか。台湾警察は密輸の疑いで67歳の女を逮捕しました。女は2012年に中国から輸入し、2億5千万円を日本に輸出しようとしました。通貨鑑定のエキスパート、偽造通貨対策研究所の遠藤智彦所長は『旧一万円の偽造は2008年から急増しています。すかし以外に偽造対策がなされていないため、偽造が造りやすいと言えます。また1982年に発行及び流通停止となりましたが、法律上は有効な貨幣のため、銀行や郵便局にもちこめば換金や両替も可能です。しかし流通停止から37年たち、銀行や郵便局職員も本物を見たことがなく、鑑定が難しくなっています。もちろんATMも対応していません。』と、コメントしています。続いて『言わば社会の隙を見つけた犯人は高齢者を雇い、タンス預金を装い銀行窓口にもちこみます。旧一万円は受け取らないか日銀または警察に相談をおすすめします。』と、警鐘を鳴らしています。



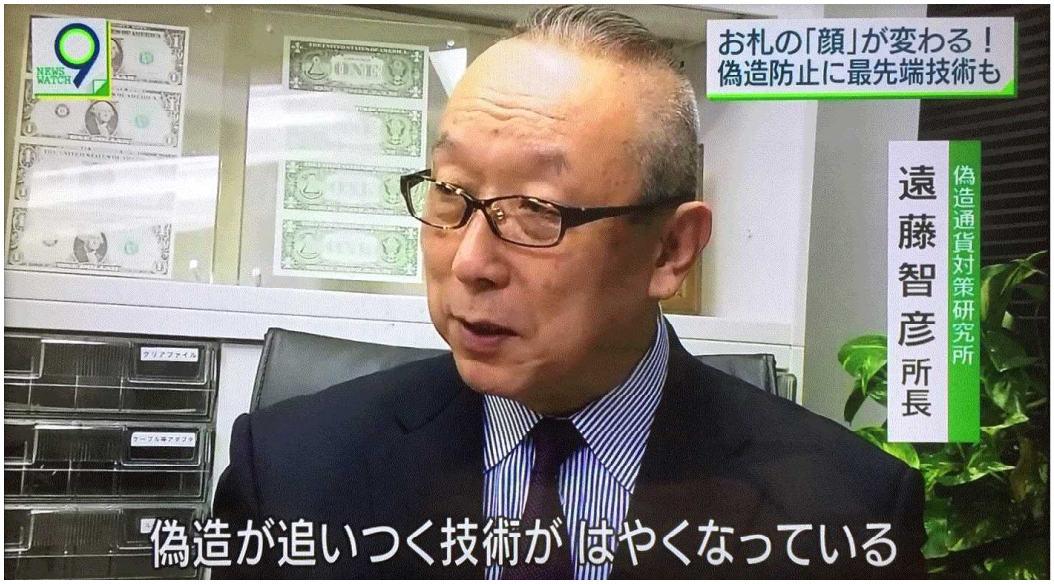
2019年4月9日NHK「ニュースウオッチ9」

平成16年以来の改訂、一万円は近代日本経済父「渋沢栄一」

深川リポーター

今回の変更は平成１６年以来。肖像や額面の数字が大きくなるなどの見た目の変更だけでなく、世界初となる偽造防止対策を盛り込むことにしています。一体どんな技術なのか。偽造防止対策の専門家の遠藤智彦さんです。

遠藤智彦さん

今回、日本が導入する技術は、斜めに傾けると肖像画の向きが変わったりが立体的に回転するように動いて見える、最先端のホログラムだということです。だから3Dと言われています。現行は2Dで、数字とマークが交互現れます。

現行の一万円にもホログラムがありますが小さく端に位置するため切り取られて悪用された例もあります。高度な偽造対策が施されても偽造はなくならないと思いますが、見破ることが容易になるため、結果として偽造券は減る可能性が高いと思われます。発行される２０２４年まで時間がありますが、その間に偽造券の再現技術が追いつく可能性もないとは言えません。いずれにしても高額紙幣を受け取る時は注意が必要です。